

新「近鉄グループ経営計画」

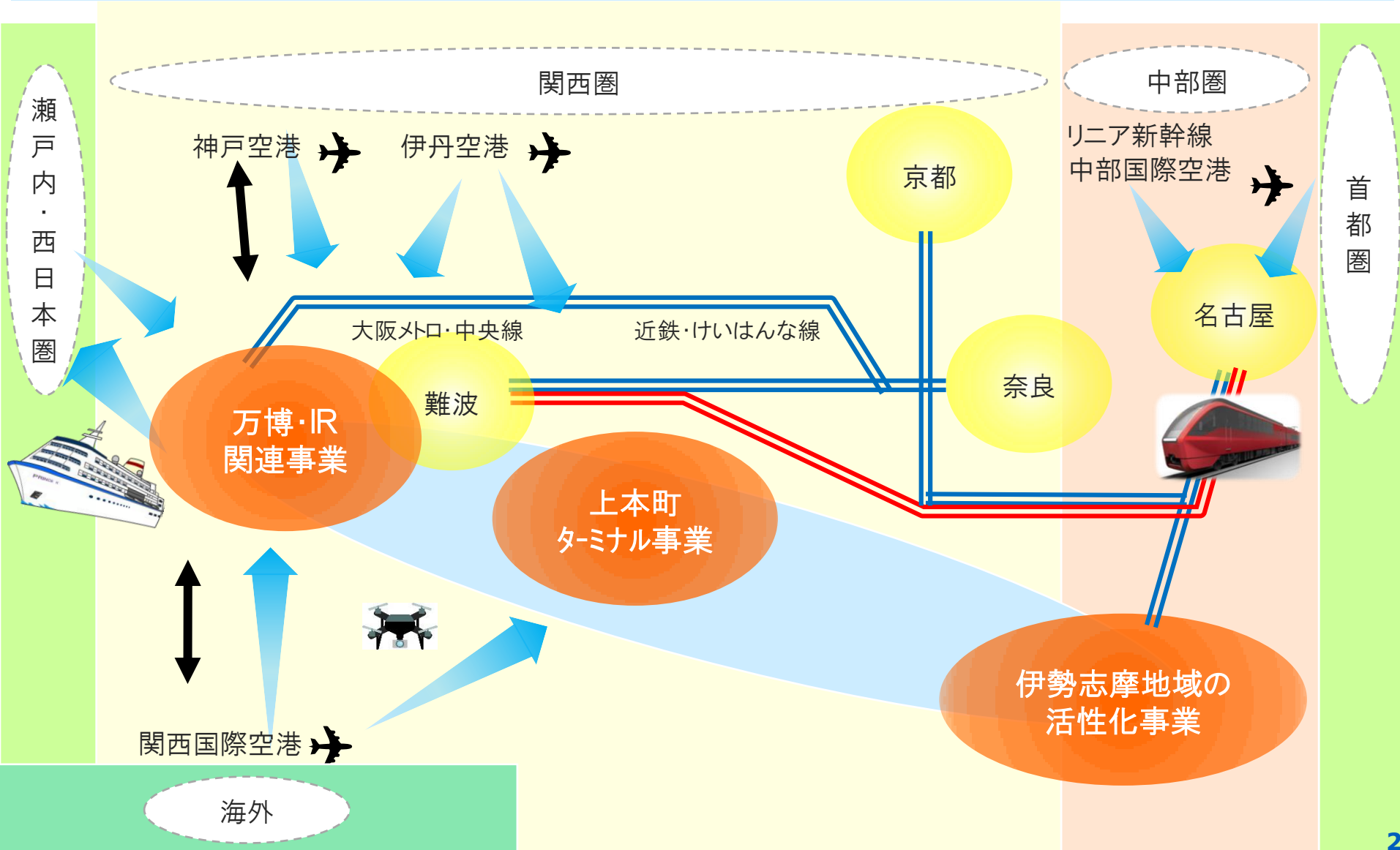
～長期目標(2033年度)および中期計画(2019-2023年度)～

資料編

近鉄グループホールディングス株式会社

新3大プロジェクト	…	P 2	～	P 6
沿線強化	…	P 7	～	P18
新規事業・事業分野の拡大	…	P19	～	P24
事業エリアの拡大	…	P25	～	P29
(参考)イベントカレンダー	…	P30		

万博、統合型リゾート(IR)を契機に、インバウンドをはじめとする旅客需要を、万博・IR関連事業、上本町ターミナル事業、伊勢志摩地域の活性化事業の新3大プロジェクトによりグループ全体のビジネスチャンスにつなげる



夢洲から近鉄沿線への直結アクセスの整備(直通列車)

- 直通運転により、夢洲から近鉄沿線への直結アクセスを実現し、夢洲からの誘客を通じた交流人口の拡大を図る
- 特色・魅力ある車両を夢洲に乗り入れることで、夢洲における当社グループのシンボルとする

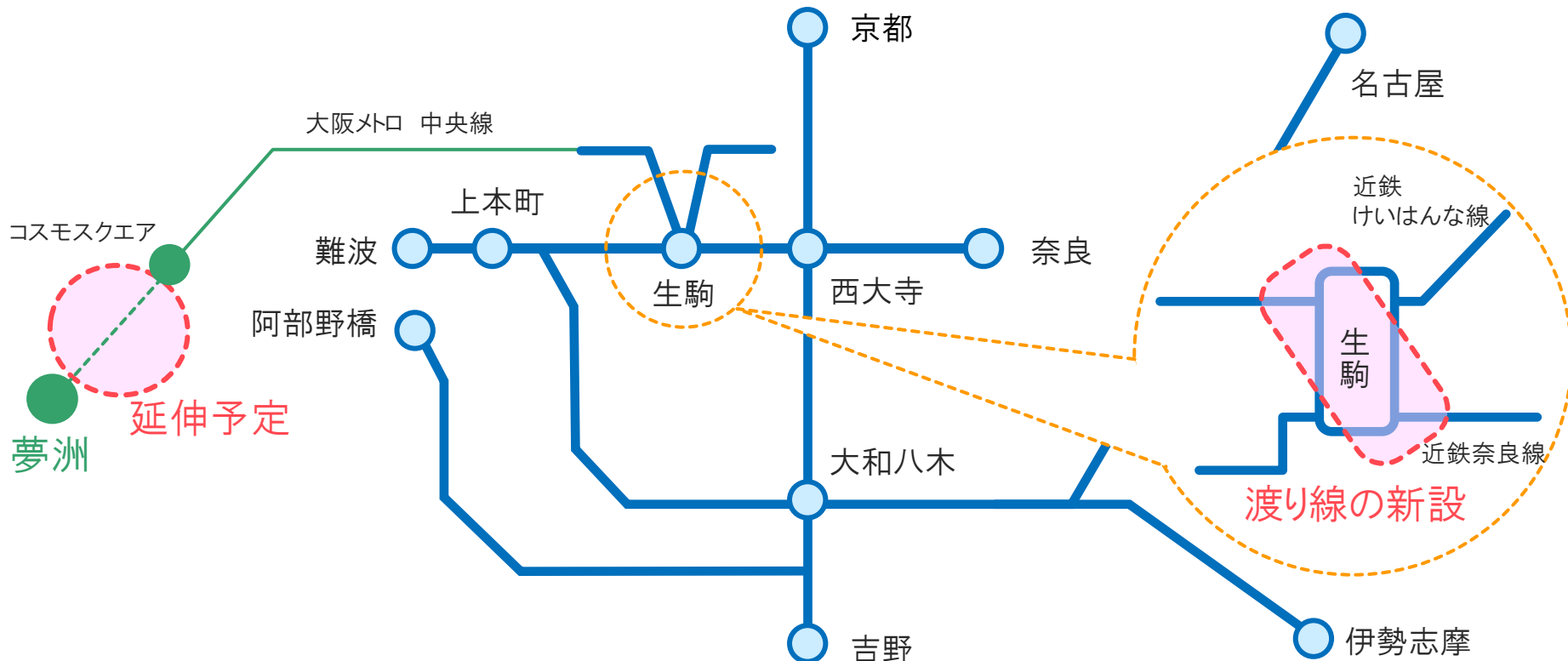
実現に向けて、

- ① 第三軌条と架線の二種類の集電方式に対応した車両の開発
- ② けいはんな線から奈良線へ乗り入れるための渡り線の新設

[現在の運用車両]



- (写真左) 第三軌条方式
近鉄けいはんな線・大阪メトロ車両
- (写真右) 架線方式(パンタグラフ)
近鉄線(けいはんな線除く)車両



上本町は近鉄グループの鉄道・バスターミナル、商業施設、宿泊施設、エンターテイメント、オフィスビルなどの施設が集積

上本町エリアにおける
近鉄グループ所有施設の
延床面積は約20万㎡

地下鉄
谷町九丁目駅

飲食ビル
(百楽本店)

ホテル・飲食ビル
(開発計画中)

上本町ターミナル

近鉄百貨店
上本町店

シェラトン都ホテル大阪
近鉄 大阪上本町駅

バスターミナル

至 鶴橋駅

オフィスビル
(近鉄本社)

新歌舞伎座・
商業・オフィスビル
(上本町YUFURA)

オフィスビル



[上本町周辺 近鉄グループ施設利用者数]

大阪上本町駅	約2,800万人	乗降者数
近鉄百貨店上本町店	約800万人	入店客数
シェラトン都ホテル大阪	約30万人	宿泊客数
新歌舞伎座	約45万人	動員数

(※2018年度実績)

近鉄グループが集積しているエリアの強みを活かし、万博・IRを契機に、今後増加が見込まれる国内外からのお客様に対応するための交通・観光情報拠点を目指すターミナル再開発の検討

開発コンセプト

■ 次世代の交通ターミナル(鉄道ターミナルの高品質化)

- 夢洲・IR会場から旅客を近鉄沿線へ呼び込むための交通ハブ・都市基盤機能の充実(鉄道、バス、タクシーのターミナルと駐車場の一体整備に加え、エアターミナルも検討)
- 高品質の旅客サービスを提供する観光案内サービス拠点の設置

■ 宿泊施設・エンターテイメント

- ランドマークとなるシンボリックな建物による新名所化、ラグジュアリーホテル、MICE機能の充実したホテルの整備、都市型エンターテイメント施設の充実

■ オフィス・インキュベーション施設

- 企業誘致による情報発信を行うビジネス拠点の創造
- 大阪上本町発のエコベンチャーシステムの構築、創造的な若者が集うコミュニティの形成

■ あべの・天王寺～上本町エリアの魅力向上

- あべのハルカスを中心としたあべの・天王寺エリアから上本町までを含めた街づくりの推進

前回大阪万博の際に整備され、また伊勢志摩サミットが開催された同地域の観光戦略を、万博・IRを契機に志摩スペイン村を核として再構築

2018年度実績

- 年間グループ売上高=271億円
- 利用者数(延べ)=1,354万人

	2018年度	
	利用者数(万人)	売上高(億円)
伊勢志摩近鉄 リゾート	218	133
鉄道 (伊勢志摩特急)	265	74
バス・タクシー・ レンタカーほか	871	64
合計	1,354	271



伊勢志摩

近鉄賢島カンツリークラブ

都リゾート 奥志摩 アクアフォレスト

賢島宝生苑

ハルカス300
【58-60F】

大阪マリオット
都ホテル
【19-20F,38-55F,57F】

オフィス
【17-18F,21-36F】

あべのハルカス
美術館
【16F】

あべのハルカス
近鉄本店
【B2-14F】

てんしば

あべのハルカスは2019年3月7日に開業5周年を迎えました
来館者数は5年間累計で約2億541万人に

[現状]

- あべのハルカス各施設は好調を維持

あべのハルカス連結収支

投資回収年数(当初15年)の早期化も見込める水準に

	2016年度 (実績)	2017年度 (実績)	2018年度 (実績)
売上高	1,091億円	1,247億円	1,325億円
営業利益	45億円	67億円	78億円
EBITDA	110億円	132億円	142億円

[今後の施策]

- あべの・天王寺から上本町エリアまでを含めた面的な広がりのある街づくりを推進
- 天王寺公園周辺のてんしばゲートエリアを強化
- 2020年までに「あべのハルカス近鉄本店」、「Hoop」、「and」3館のリニューアル
- インバウンド需要の取り込みのさらなる拡大



より魅力ある車両を導入し、付加価値のある移動空間を提供することで、交流人口の拡大を目指す

継続的な観光列車の検討

- 乗ることが目的となるような観光列車を戦略的に投入する
- 大阪、京都、名古屋に訪れる観光客を沿線の観光地へ誘客し、沿線地域の活性化に貢献する

名阪特急サービスのさらなるブラッシュアップ

- 2020年春に新型名阪特急を投入

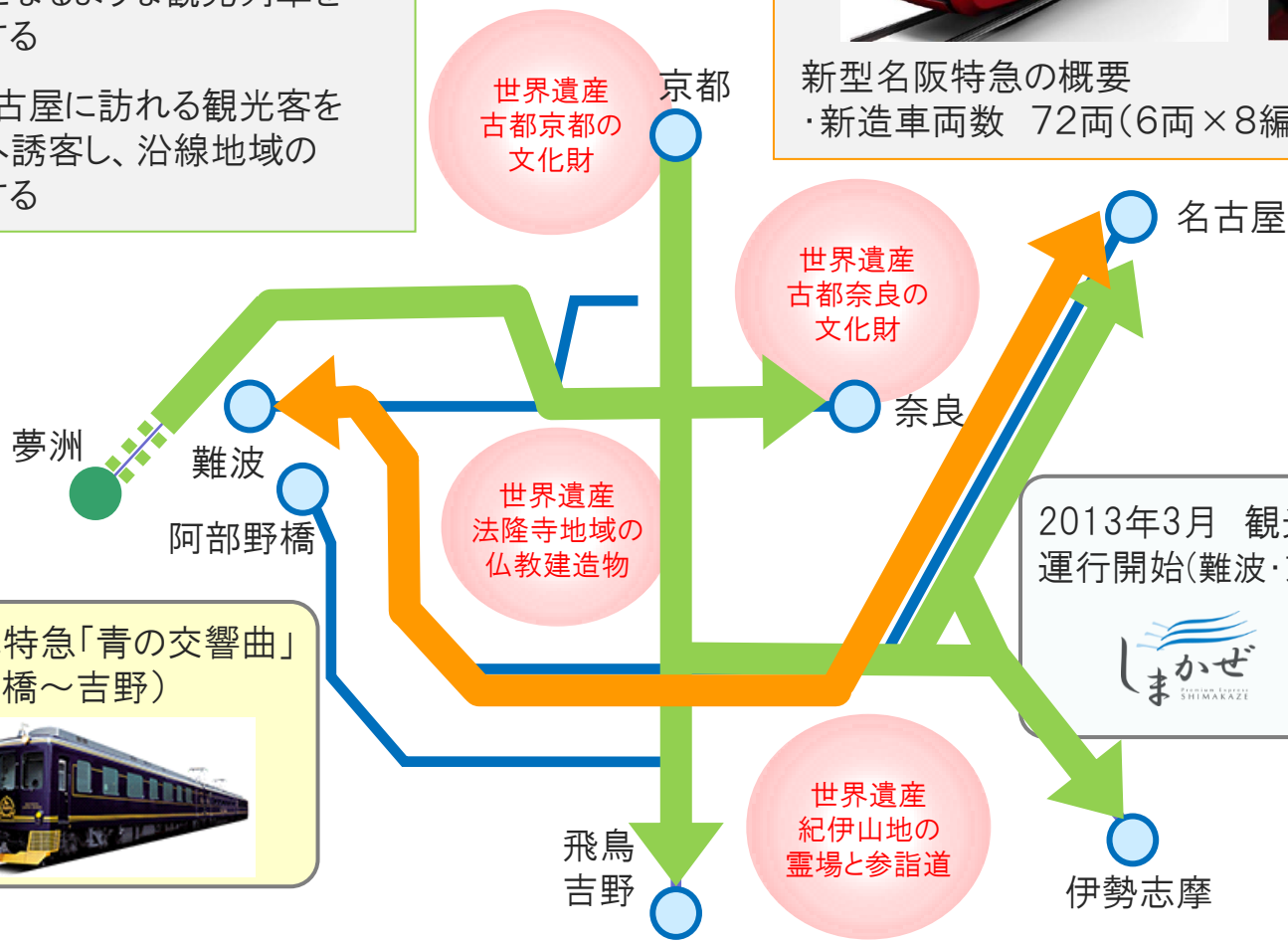
新型名阪特急(イメージ)

先頭ハイグレード車両車内(イメージ)



新型名阪特急の概要

・新造車両数 72両(6両×8編成、8両×3編成)



2016年9月 観光特急「青の交響曲」
運行開始(阿部野橋～吉野)

シンフォニー
青の交響曲
Blue Symphony



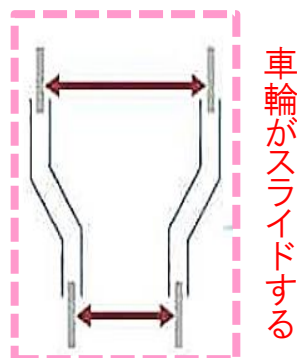
2013年3月 観光特急「しまかぜ」
運行開始(難波・京都・名古屋～賢島)

しまかぜ
SHIMAKAZE



フリーゲージトレイン(軌間可変電車)

標準軌 1,435mm と狭軌 1,067mm など、異なる軌間(ゲージ)を直通運転できるように車輪の左右間隔を軌間に合わせて自動的に変換する電車

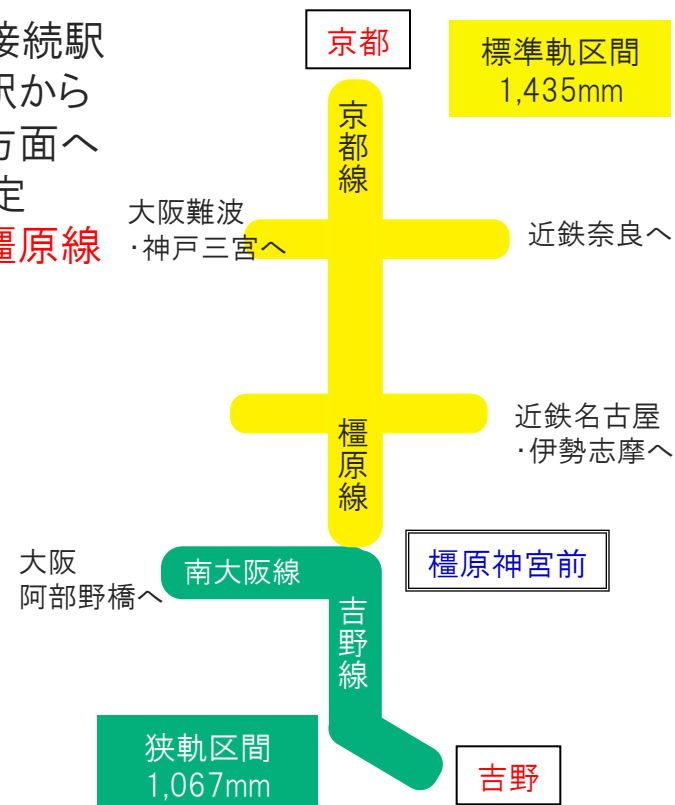


導入による効果

- 京都駅から京都線・橿原線を経由し、橿原神宮前駅からレール幅の異なる吉野線を経て、吉野駅まで直通運転することが可能(乗り換えが不要)
- 首都圏からの旅客やインバウンド旅客の利便性と、特急ネットワークの価値向上を図る

検討対象路線

新幹線との接続駅である京都駅から奈良・吉野方面への路線を想定
(京都線～橿原線～吉野線)



今後の展開

国土交通省とも相談し、鉄道車両メーカー等と共に実用化に向けた検討を進めていく

インバウンド需要による増収効果

当社グループ主要会社の推定インバウンド売上高

	2015年度 実績	2018年度 実績	2020年度 (イメージ)	2030年度 (イメージ)
グループ計	約270億円	約600億円	約700億円	約1,100億円
鉄道	15億円	23億円		
(推定利用者数)	(310万人)	(490万人)		
ホテル	90億円	95億円		
百貨店	30億円	257億円		
旅行(※販売高)	140億円	222億円		




[参考]訪日旅客数と関西国際空港外国人旅客数の推移

	2015年度 実績	2018年度 実績	2020年度 (イメージ)	2030年度 (イメージ)
訪日外国人旅客数	2,136万人	3,162万人	4,000万人	6,000万人
関空国際線 外国人旅客数	1,100万人	1,528万人		
			消費見込み額 8兆円	消費見込み額 15兆円

- 海外における近鉄および沿線観光地の知名度の向上
- 外国人向け旅客サービスの強化

インバウンド向けマーケティングによる需要喚起

- 沿線における観光資源の発掘と、沿線の魅力をSNSなどを通じて海外のお客様へ向けて発信することを継続する

外国人観光客向けサービスや駅機能の拡充

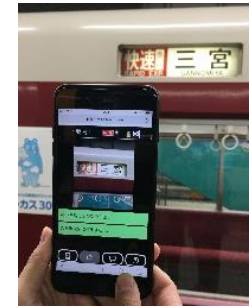
- 海外からのお客様向けのサービスや利用環境の整備に取り組む
 - AI技術を用いてお客様を適切に目的地へ誘導する実証実験を開始
 - 主要駅における外国語スタッフの配置や無料Wi-Fiサービス等をさらに充実
 - 主要な案内サインや自動券売機、列車内や駅構内における案内放送の多言語対応の拡充

[携帯型放送装置]

第15回日本鉄道賞(国土交通省主催)において「『安心インバウンド対応』特別賞」受賞



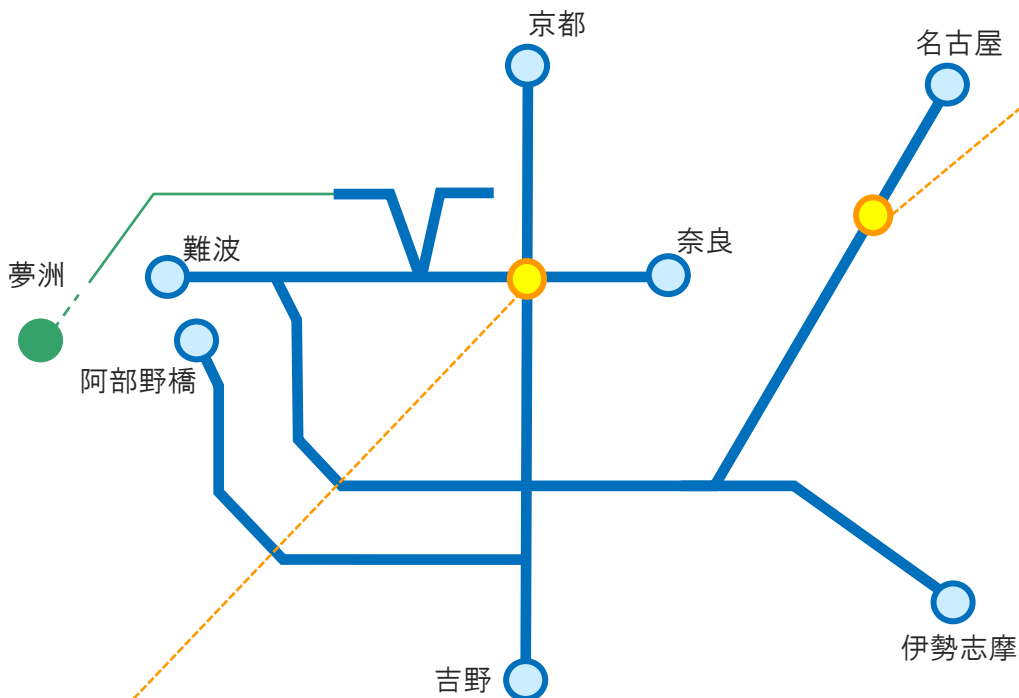
海外旅行博への積極的な出展



実証実験によるサービスの利用イメージ



主要駅における外国語スタッフの配置



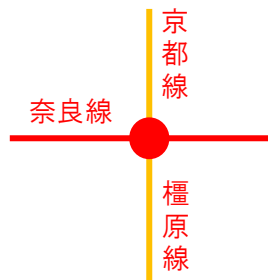
桑名駅

- 養老鉄道、東海旅客鉄道、三岐鉄道と結節する桑名市の中心駅
- 2021年度の供用開始を目途に、東西自由通路とこれに接続する橋上駅舎化工事を施工中
- 駅東西の周辺開発についても今後注力する



大和西大寺駅

- 近鉄奈良線、京都線、橿原線が交差する利便性の高い駅
- 2021年3月に南北自由通路が完成予定であり、駅内部の商業施設も増床
- 自由通路の整備に伴い、駅周辺の不動産開発なども含め、主要駅としてさらなる開発を進める



- 沿線主要駅周辺での保有資産について、計画的に再開発を推進し、人口減少、高齢化にも対応できるコンパクトシティづくりを目指す
- 河内小阪駅前では保有資産の建替え、桑名駅と大和西大寺駅では駅と周辺の一体的な再開発を推進する

河内小阪駅前再開発

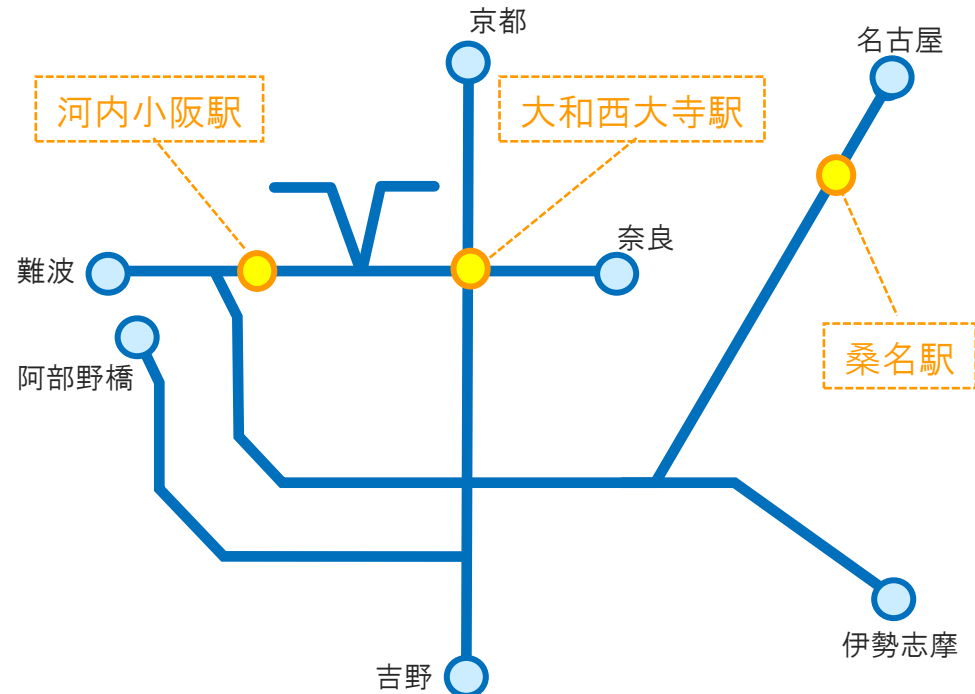
- 河内小阪駅前の保有敷地約13,000㎡の再開発を計画中
- 地域特性を踏まえた総合開発を推進し、魅力あふれる沿線主要駅エリアとする

桑名駅前再開発

- 桑名駅西土地区画整理事業に伴い、駅前の保有敷地において、地元・行政などと連携した総合開発の推進

大和西大寺駅前再開発

- 大和西大寺駅南土地区画整理事業に伴い、駅前の保有敷地において、地元・行政などと連携した総合開発の推進



昇降ロープ式ホームドアの設置



降下時



上昇時

2018年12月、当社初のホームドア(昇降ロープ式)を大阪阿部野橋駅に設置

新型ホームドア(縦型上昇式)の研究・開発



引き続き、プラットホームからお客様が転落する事故を未然に防ぐため、駅や車両特性に応じたホームドアの研究開発を進める

映像解析技術を活用した安全対策の研究
(駅構内(ホーム)の見守り)

車いす利用者

ホーム端や立入禁止
エリアへの侵入

駅構内に設置したカメラの映像を活用し、解析技術を用いることで、お客様の行動や駅構内の状態変化を検知することにより、お客様の安全や駅の快適性向上を図り、運用方も含めて研究開発を進める

- グループの総合力を活かした安全・安心で豊かな暮らしの支援
- これからの時代のライフスタイル、ライフサイクルに応じた、テクノロジーを活用した生活支援サービスの展開

沿線価値の向上

住まい

〔リフォームやインスペクション、
住み替えの推進など〕

まち

〔地域の安全・安心／
域内消費活動の活性化など〕

暮らし

〔買い物の利便性向上／
定期的なセミナーの開催など〕

生活支援事業「近鉄“楽・元気”生活」

沿線の暮らしを支援する各種サービスを提供する事業

- 365日年中無休のコールセンターの運用
- 新たな生活サービスの提供
(空き家管理、子育てタクシー、家具移動、宅配スーパー等)
- 「住まいと暮らしのぷらっとHOME」の開設

住まいと暮らしのぷらっとHOME

近鉄学園前駅で「近鉄“楽・元気”生活」サービス、不動産仲介情報、リフォーム情報をワンストップで提供する複合型店舗



近鉄学園前駅
ホーム直結
店舗出入口

近鉄グループの総合力

- 駅前賃貸マンションの整備
- ネットスーパーや移動スーパーの展開




K-TERRACE 学研奈良登美ヶ丘

[今後の取り組み]

- シニアレジデンスの展開
- ヘルスケアサービスの提供

- 沿線においてシニアレジデンスおよび生活支援サービスの展開
- 近鉄スマイルライフで培った介護事業の基盤と、多様な事業展開の強みを発揮

[これまでのシニア事業]

スマイルをお届けします

近鉄スマイルライフ

- 訪問介護、通所介護事業
ケアセンター(計4か所)
- シニア向け住宅事業
ウェルスマイル八戸ノ里(1か所・50戸)
- 福祉用具事業
レンタル・販売事業(計7拠点)



通所介護事業
北登美ヶ丘ケアセンター



シニア向け住宅事業
ウェルスマイル八戸ノ里

[今後の取り組み]

近鉄不動産ライフケア事業部と近鉄スマイルライフが連携し、シニア向けの住まいとサービスを一体的に提供

- シニアレジデンスの開発を検討中
(学研奈良登美ヶ丘エリア)
- 生活支援サービスの事業拡大
(家事代行・買い物代行等)

新しい時代に対応したシニアビジネスの展開

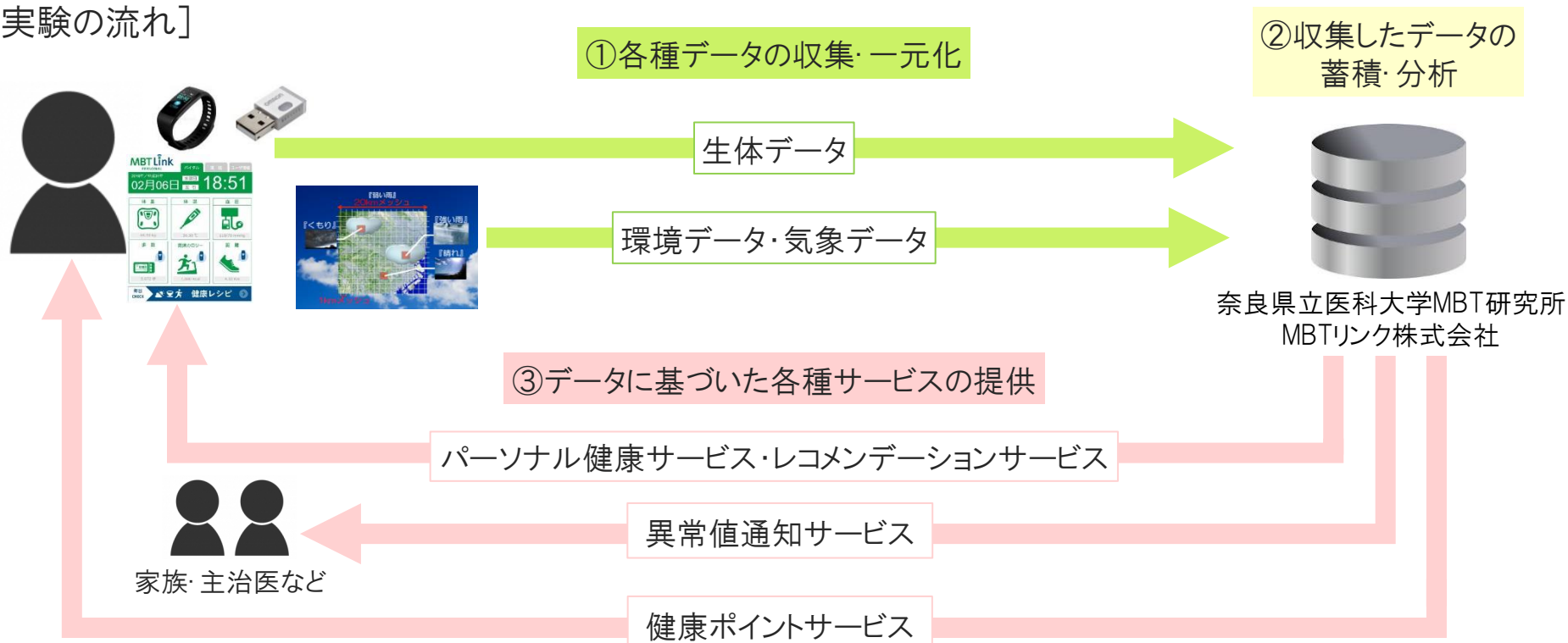


(イメージ)

[実験の概要]

実施目的	沿線住民の健康的な暮らしを支えるため、医療機関と連携した独自のヘルスケアサービスの提供を目指す
スキーム	国土交通省「スマートウェルネス住宅等推進モデル事業」の採択事業
実施主体	当社(協力: 奈良県立医科大学MBT研究所、MBTリンク株式会社)
実施期間	2019年4月～2020年3月
対象地区	奈良市 学園前住宅地・登美ヶ丘住宅地

[実験の流れ]



コーポレートベンチャーキャピタル(CVC)を活用した新規事業の創出

- 2018年8月1日にCVCの近鉄ベンチャーパートナーズ(株)を設立し、グループの新たな柱となる新規事業や、サービスとテクノロジーが融合した新規事業の創出を進めている
- **ベンチャー企業3社**への出資を実施しており、今後も継続的に戦略リターンを見込める企業や技術に対し積極的に出資を行う

[出資先事例]

- FlyData Inc. (米国法人) …AI技術を活用し、企業が保有するビッグデータを有効活用するためのサービスを提供
- Wovn Technologies株式会社 …WEBサイトの多言語化ツール開発、企業向け翻訳サービスの提供
- 株式会社AirX …ヘリコプターの手配・予約のマッチングサービス・プラットフォームの提供

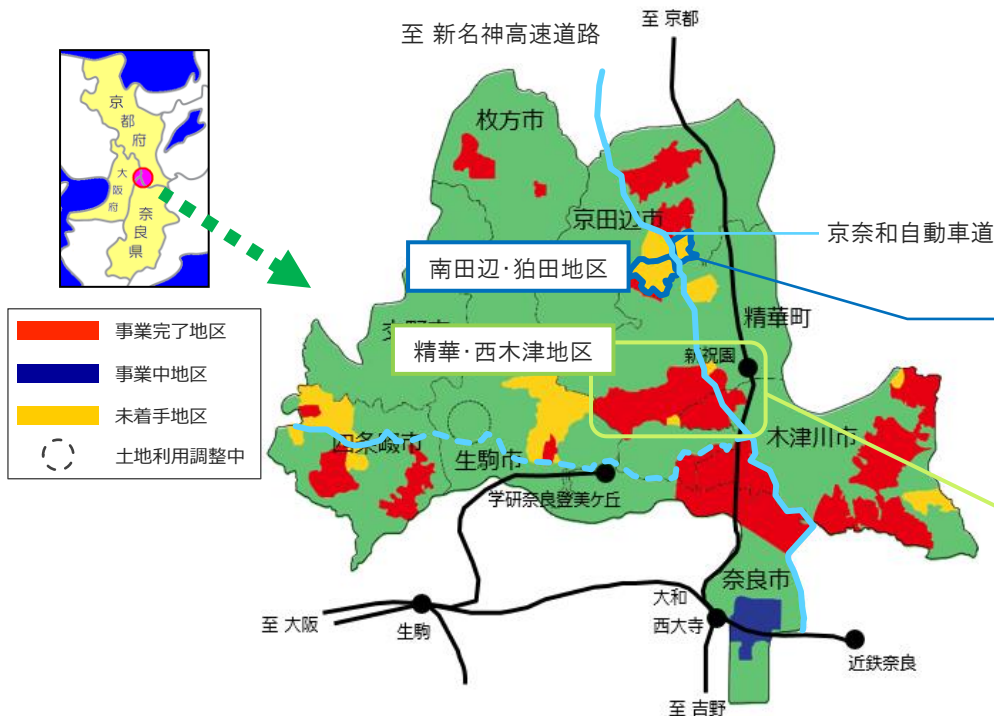
インキュベーション施設の展開

- オープンイノベーション拠点として、上本町、あべのエリアへの設置を想定
- 近鉄ベンチャーパートナーズがマッチングなどスタートアップの支援を実施
- 研究機関や大学などとの産学連携や、沿線企業との共同開発による沿線の活性化なども期待

- 研究・大学・文化施設の集積が進み、都市人口は25万人、立地施設数は144に到達
- 学研都市の着実な成長をとらえて、グループ各事業の発展拡大につなげる

近鉄グループにおける新サービス・新規事業の創出の推進

- 学研都市に所在する研究機関との連携やオープンイノベーションの枠組みへの参画等により、学研都市の先端テクノロジーを取り込み、グループ各事業において革新的なサービスの提供と新規事業の創出を進めるとともに、生産性の向上につなげる
- 近鉄グループは、「けいはんなR&Dイノベーションコンソーシアム」や、「けいはんなリサーチコンプレックス」の研究に参画



南田辺、狛田地区における保有土地

- 学研都市への堅調な立地需要に対して、南田辺、狛田地区の保有土地約100haの開発を検討

近鉄不動産保有地
約100ha

精華・西木津地区
学研都市の中心地区として、近年、産官学の施設集積が進む
(日本電産3ha、三菱UFJ銀行5ha、日本郵政5ha)

近鉄ハルカスコインとは

フィンテックの核心技術ともいえるブロックチェーン技術を活用したデジタル地域通貨で、お客様が自らのスマートフォンを使って簡単に決済することができ、国が目指している「キャッシュレス社会」の実現を推進していくものである



これまでの実証実験

第1回社会実験の実施

[期 間] 2017年 9月1日～10月1日
[場 所] あべのハルカス(約200店舗)

第2回社会実験の実施

[期 間] 2018年 10月1日～12月10日
[場 所] あべのハルカス、大阪市立美術館、天王寺動物園、商店会 など(約400店舗)

総務省・ブロックチェーン技術の利活用推進事業への参画

[期 間] 2019年 2月1日～2月28日
[場 所] 大阪上本町駅周辺地域(25店舗)



上記を踏まえ、近鉄百貨店(あべのハルカス)等における「近鉄ハルカスコイン」の早期の実用化を目指していく

まわりゃんせデジタル化事業

「近鉄ハルカスコイン」の実証実験の成果に基づき、既に展開している鉄道企画乗車券「まわりゃんせ」と、観光施設や飲食店等で利用できるデジタル地域通貨を一体化することで、伊勢・鳥羽・志摩へのさらなる誘客につなげるとともに、沿線活性化モデルとなる新たな仕組みを構築する



鉄道企画乗車券
(まわりゃんせ)

デジタル地域通貨
(近鉄ハルカスコイン)

- プレミアム付きコイン
- スタンプラリー機能
- 購買データの収集

伊勢・鳥羽・志摩における
まわりゃんせのデジタル化と
デジタル地域通貨の発行

近鉄グループ
鉄道流通
ホテル・レジャー
ホールディングス

外部企業との
アライアンス

鉄道営業のデジタル化

MaaSへの対応

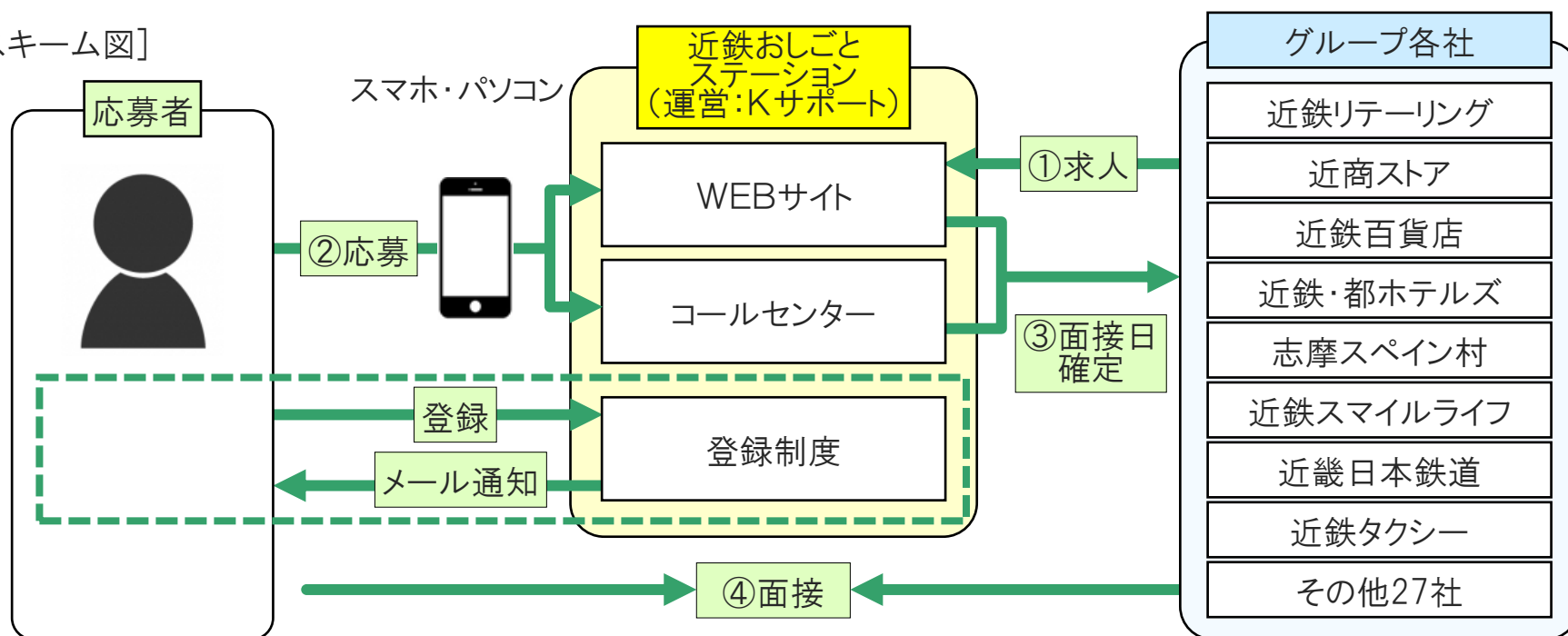
沿線各地でのデジタル地域通貨の展開

テクノロジーを活用した人材確保と省力化

近鉄おしごとステーション

- 2017年3月開設(参加会社35社)
- 応募数:約40,000件 採用数:約8,000人
- スマートフォンを活用し、希望職種に応じた近鉄グループの求人情報紹介・応募受付をワンストップで提供
- 今後も新しい機能やWeb広告手法の導入により、応募者の増加と採用業務の負担軽減をより一層進めていく

[スキーム図]



不動産事業における物件活用の選択肢を増やすため、都ホテルズ&リゾートと展開カテゴリーのすみ分けを図り、宿泊特化型ホテルやゲストハウスなどを展開する

難波


[宿泊特化型ホテル]
計画中



(イメージ)

河原町三条

[簡易型ビジネスホテル向けビル賃貸]
ファーストキャビン
京都河原町三条
2017年12月開業



奈良

[宿泊特化型ホテル]
計画中

名古屋市内
名古屋

上本町

[宿泊特化型ホテル]
計画中



(イメージ)

阪神間

大阪市内

京都市内
京都

奈良市内

南和エリア

天王寺

[ゲストハウス]
近鉄フレンドリー・ホステル
大阪天王寺公園
2016年11月開業



…出店検討エリア
(イメージ)

すでに進出中の事業や拠点を足掛かりに、市場が拡大し、成長が期待されるエリアへ経営資源を投入

ベトナム

- ハノイの分譲住宅開発事業への参画
※2018年 ハノイ駐在員事務所を開設(近鉄不動産)
- 周辺ASEAN諸国を含めた不動産開発事業への参画を検討中



2017年参画ハノイ分譲住宅開発事業
The Manor Central Parkプロジェクトイメージパース

米 国

- テキサス州プレイノ市周辺でのホテル用地取得
- その他エリアにおけるホテル事業展開



都ハイブリッドホテル トーランス・カリフォルニア

台 湾

- 2016年4月 台北支社設立
- 台湾鉄路管理局、台北101等各分野において提携
- 飲食店や駅ナカ事業への参画
※江戸川(鰻料理店)台湾進出
2019年4月に台北中山店を開業
2023年までに10店舗を出店予定
- ホテル・レジャー事業の検討



江戸川台北中山店

上記以外の国でも、様々な事業の参画を検討

首都圏エリアでの事業拡大のため、都心三区(千代田区、中央区、港区)を中心にオフィスビル等の賃貸優良資産の取得、大規模開発事業への参画を推進



「京橋スクエア」
中央区京橋3丁目
東京メトロ銀座線
「京橋」駅徒歩1分
都営浅草線
「宝町」駅徒歩1分
2016年1月取得



左 : 「近鉄銀座中央通りビル」
中央: 「近鉄銀座中央通りビルⅡ」
右 : 「近鉄銀座中央通りビルⅢ」
港区新橋1丁目
東京メトロ銀座線、都営浅草線、
ゆりかもめ線「新橋」駅徒歩2分
左 : 2017年4月取得
中央・右: 2019年1月取得



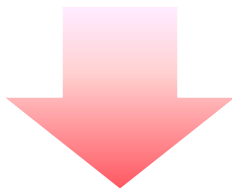
「近鉄新宿御苑ビル」
新宿区新宿1丁目
東京メトロ丸ノ内線
「新宿御苑前」駅徒歩1分
東京メトロ丸ノ内線・
副都心線、都営新宿線
「新宿三丁目」駅徒歩7分
2018年6月取得



「日総第23ビル」
港区虎ノ門3丁目
東京メトロ日比谷線
「神谷町」駅徒歩5分、
銀座線「虎ノ門」駅徒歩6分、
日比谷線「虎ノ門ヒルズ」(※)駅徒歩1分(※2020開業予定)
2019年2月取得

今後の観光分野の成長が見込める沖縄に積極的に進出する

- 2018年の来訪者数は、約999万人を超える(対前年4.4%増、うち外国人300万人)
- 2019年のクルーズ船の寄港回数は697回の見込み(那覇、宮古島、石垣ほか)
- 2020年度に本部港と那覇空港第二滑走路が供用開始(予定)となることや、国の沖縄振興策の実施などにより、観光客の増加が予想される(2030年度には現在の約2倍の1,742万人に)



[具体的な事業計画]

- 宮古島市伊良部島・那覇市内にてリゾートホテルを計画中
- 沖縄本島のテーマパーク事業の準備会社に出資



伊良部島リゾートホテル(イメージ)

- 当社グループの各ホテルを、「都ホテル」「都シティ」「都リゾート」の3つのカテゴリーに分類
- サービススタイルの違いをお客様にわかりやすく訴求し、今後の新規展開やリニューアルの基準に
- 2019年4月から新たなブランドロゴやホテル名称を使用

2018年度

ラグビーW杯

2020年度

東京オリンピック・パラリンピック

以降

2020年春リニューアルオープン
「ウェスティン都ホテル京都」
(都市型フルサービスホテル)【約270室】

沖縄
リゾートホテル
計画

2019年2月11日開業
「都シティ 東京高輪」
(都市型カジュアルサービスホテル)
【199室】

2019年9月22日開業
「都ホテル 博多」
(都市型フルサービスホテル)
【208室】

2020年春開業
「都シティ 大阪本町」
(都市型カジュアルサービスホテル)
【約300室】



- 2020年春グランドオープン(予定)
- 京都を代表する高級ラグジュアリーホテルへ大規模リニューアルを実施するとともに、京都らしい最高のおもてなしを提供する

主なリニューアル内容

[客室]

- 2室を1室にするなど、平均客室面積を約35㎡から約50㎡へ拡大
- 全客室の浴室に独立した洗い場を設置

[スパ施設]

- ホテル敷地内で掘削する温泉を活用した約1,000㎡のスパを新設
- 庭園と一体となる半露天風呂やスパ施設内にジムを設置

[レストラン]

- ミシュラン2つ星シェフ、ドミニク・ブシェ氏が監修する、本格的なフランス料理を提供するメインダイニングや、ライブキッチンなどを備え、京都市街を一望できるビュッフェレストランを新設



リニューアル後の客室(イメージ)



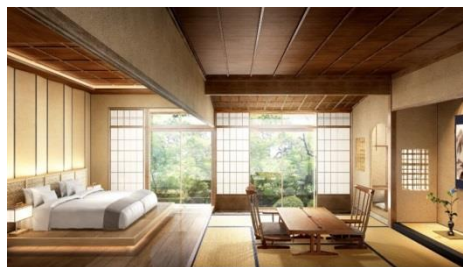
リニューアル後のメインダイニング内観(イメージ)



リニューアル後の全体イメージ



佳水園 外観



リニューアル後の佳水園客室(イメージ)

[佳水園]

- 建築家村野藤吾により設計され、1959年竣工した、ウェスティン都ホテル京都内の数寄屋風別館
- 醍醐寺三宝院を模した中庭を囲むように、敷地の高低差に沿って客室を配置

(参考) イベントカレンダー

前回計画
～2018年度

中期計画
2019—2023年度

2024—2028年度

2029—2033年度

インバウンド

前回計画
最終年度
インバウンド
3200万人
(見通し)

2020年
インバウンド
4000万人

2030年
インバウンド
6000万人

主要イベント

2019年
G20
大阪
サミット

ラグビー
ワールド
カップ
(4,300億円)

2020年
東京
オリンピック・
パラリンピック

2021年
ワールド
マスターズ
ゲームズ
2021
関西
(1,461億円)

2025年
大阪・関西
万国博覧会
来場者2,800万人
(1.9兆円)

統合型リゾート(IR)
大阪・夢洲誘致計画
来場者数1,500万人/年
(建設7,600億円、運営6,900億円/年)

2033年
第63回
伊勢神宮
式年遷宮

2019～2021
ゴールデン・スポーツイヤーズ

大規模インフラ整備

2024年
(目標)
大阪外口
中央線延伸
(コスモスクエア
～夢洲)

2027年
(目標)
リニア中央
新幹線開業
(品川～名古屋)

2037年
(目標)
リニア中央
新幹線全通
(品川～大阪)

※()内は当該イベントで想定されている経済効果

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化などにより、計画数値と異なる可能性があることにご留意ください。又、本資料は情報の提供のみを目的としており、取引の勧誘を目的としておりません。

お問合せ先

経営戦略部

Tel : 06-6775-3425

Fax : 06-6775-3644